



緑豊

釣り用デッキや、緑の遊歩道。
皆さんもちょうど散歩してみませんか。
(栗山川河回)

かな清流を

栗山川シンポジウム開催

心地よい風が吹き抜け、天気の良い日は
思わず散歩に出かけたくなります。
長い時間の流れの中で、ゆったり流れる
栗山川。

その清流も時代とともに汚れが進み、水
面をはねる魚の数も少なくなりました。
「きれいな川に……」

多くの人が立ちあがりました。



栗山川への関心が高まったパネルディスカッション
パネラー：左から
高橋教授・椎名文雄氏(木戸)・宇井寧子さん(横芝町)
伊藤一男氏(横芝町)・藤城吉雄氏(宮内)・田代教授・
実川横芝町長・向後光町長



「緑豊かな、清流を求めて」川との共生を考えるをテーマに、「平成8年度栗山川シンポジウム」が3月30日に光・横芝両町の主催、千葉県河川海岸課・八日市場土木事務所・栗山川改修促進期成同盟会の後援により町民会館大ホールで開催されました。

当日は、光町や近隣市町より約330人が集まり、参加者全員による「花」春の小川」の大合唱が行われ、その後、白浜小学校6年実川美邦君による「栗山川を花街道にしよう」の朗読が行われました。

基調講演では、千葉大学田代順孝教授による「町づくりは水辺から」を演題にした①川は文明・文化の発祥、発展に欠かせないものである。②人と人、町と町を結ぶ心の架け橋となる川にしてほしい。③人と川との良い関係・風土、風景にあった環境を作り出す。という内容の話があり、川と人との結びつきに改めて考えさせられました。また、パネルディスカッションでは千葉工業大学高橋彌教授の司会進行で、パネラーとして田代順孝教授他6名により、栗山川の今昔、実体験で感じた栗山川、川に対して行なっている生活の配慮等々の話があり、会場からも将来の川への要望等熱心な質問が飛び交い、栗山川に対して寄せる関心が高まっているのを感じさせる会でした。